待降節第1主日
宣教地召命促進の日

福音朗読 ルカ 21・25-28, 34-36

2024.12.1 9:30 ミサ
カトリック高円寺教会
主任司祭 高木健次神父

冒頭にも申し上げましたけども、今日から待降節——クリスマスを準備する季節に入ります。そしてこのごミサの中でクリスマスに洗礼をお受けになる方の洗礼志願式が行われます。

わたしたちも心新たに——教会としての新しい年の巡りに入っていますけれども——心新たに信仰生活を送っていく思いをもう一度見直せたらなあと思います。

今日はまた「宣教地召命促進の日」にもあたっております。宣教地召命促進の日ってというのは、宣教地——キリスト教の信者の割合が少ない、そういう国のことを宣教地って言います。イエス様のことを知ってる人、信じてる人が日本は少ないですよ。皆さん、子どもたちも学校で——カトリックの学校だったとしても——教会に行ってる、洗礼受けてる信者の人はクラスに1人か2人かもしれない。その他の学校だったらもっと少ないですね。神父さんは子どもの頃は普通の学校に行ってた——小学校は公立の船橋市立の小学校行ってたので、カトリック信者は学年が140人ぐらいの学年でわたしともう1人だけだった、教会行ってるのはね。学年で2人だったと思います。そういう信者が少ない社会の中で召命——イエス様に呼ばれて——キリスト信者になりました。それぞれ、イエス様が一人ひとりをお呼びになったその意味を改めて考えながら——それは決してわたしたちが教会の言いなりのロボットになるということではない——イエス様との対話のうちに、でもこの社会において自分の役割が何か、信者としての役割は何かということをいつも問い続ける、そういう趣旨であります。

そしてもっと狭い意味では、今日の日は昔は「宣教地司祭召命促進の日」って言って、司祭とか修道者、教会の中で奉仕するっていうそういう人たちが増えるようにというか、少なくとも若い人たちが、人生の選択肢としてそういうことを初めからもう自分には関係ないと思わないで、それも考えながら、イエス様との

対話のうちに、もしその呼びかけを感じるならば、司祭や修道者になる人が増えますようにということをお祈りするという意味での日でもあるわけです。

わたしは子供の頃から教会に行っていたので、皆さんたちと同じように——最初はもっと小さかったから——奉納からその教会での役割っていうことを始めました。今もみんな奉納でパンとぶどう酒を持ってきてくれますね。その後、兄とかがやってた侍者をやりたいなと思っていて、でも侍者は、わたしたちの時代は子どもが多かったから、あんまりみんなは一度にはできないから順番で——1ヶ月に1回とか2ヶ月に1回かな回ってくる——侍者をやりました。でも今は子どもが少ないから、「今日やっていいかな」と思う人はみんなやってほしいんですけど。侍者も——今日初めて十字架を持って入堂してくれた係の人がいますけど——十字架とかロソとかは中学生ぐらいなってからじゃないとしないことだったんだけど、今はみんな頑張って「その役割をやってくれる？」って頼まれれば小学生でもできるんですよ。だから幼稚園の子でもできるかもしれません。でも順番があるからね、だんだん学んでいって。

で、わたしが司祭になるのかなって考え始めたのは、いろんな理由がありますがけども、一つは6年生ぐらいでしたか、教会に当時の大司教様がいらっしゃったときに、ロウソクを持つ侍者がたくさん必要だからロウソクを持つ係かなんかやって、ミサが終わった後に大司教様が侍者たちに「誰か神父さんにならないとね」って言ったのが一つのきっかけかもしれません。皆さんも大司教様とか、大司教様のときだけじゃなくてミサは大切なので、でもみんな——女の子が多いから、まだカトリック教会は神父さんはちょっとなれないかもしれませんけど——色々役割を考えて欲しいんですね。

だけど強制はされると嫌になっちゃうんですね。一つ覚えて思えてるのは、堅信式のとくに——自分が堅信を受ける中学生ぐらいのときですよ——「はい、共同祈願は高木君です」ってもう初めから決められ、「それはおかしいな」って、「やだな」と思って、でも中学生は行動で表しますよね。「そのことはおかしいじゃないですか」って言わなくて、当日行かないっていう行動をもってその疑問を表す。中学生、高校生の行動にはやっぱり意味があるんだろうと思いますね。大人から見て「なんてことするんだ」って、代父も待ってるし、その席も空いてるのに行かないって。でもそれはやっぱり「共同祈願やってくれる？」「やりま

す」っていうプロセスが必要だったわけですよ。やりたくないってことよりも、勝手に決まっているっていう。

イエス様の呼びかけっていうのも、呼びかけがあつて、でも強制的に首根っこ捕まえてするというものではない。「一緒にこの役割をしてくれるだろうか？」って呼びかけがあつて、それを受け入れることもできるし、断ることもできるし、断るならば「じゃあ、まだ、またお願いするからね。今はその時ではないんだな」っていうふうに何度でも、イエス様はわたしたちを強制するのではなくて、でも呼びかけ続けてくださるっていう方です。だから子どもたちも、また大人も、教会の中で役割を呼びかけられ、引き受ける、ある場合によっては断る、その経験の中で、それは一つの練習です。本当は人生の中で心の中の対話、イエス様からの呼びかけを受けながら、それにどのように答えていくのか、あるいは答えないのか、答えなかったけど時間が経って答えるのか、そういう対話をする心の状態を持ち続ける、それが信者として生きる、あるいは信者じゃない人との大きな違いなのではないかと思います。

今日洗礼志願式をお受けになる白石さん、決断するまでに時間かかったかもしれないけれども、でも自分だけの決断ではないわけです。イエス様とともに歩む思いを新たにしておいて、そしてそのためだったら多くの恵みにまた出会うことがあると思います。今日洗礼受けるわけじゃないですけど、もう準備を十分にいたしました。

なので、わたしたちも洗礼志願者の方と心を合わせながら、この待降節の歩みを通して一人ひとりがイエス様とともに歩む、その思いを新たにしつつ、それを通して与えられる多くの恵みに出会うことができますように、このごミサを通して互いのために恵みを願い合いたいと思います。

それではお話はこのくらいにして、降誕祭に洗礼を受ける決心をされた求道者は代母と一緒に前に出てください。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>